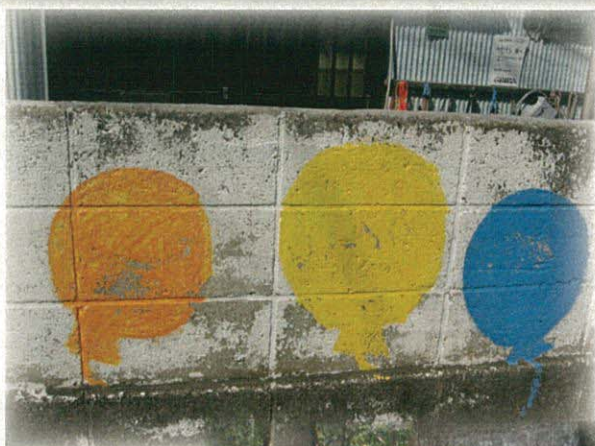


景観まちづくり学習モデルプログラム

ひそんでいるぞ！ カオ・かお・顔

～ほんじゅくのまち たんけんたい～



生活科指導案

横浜市立本宿小学校 2年生
指導者 井関 玲

1 単元について

子どもの実態

- 一年生の時には上級生に連れられて学校めぐりを行った。そのときに、様々な疑問や不思議なものを見つけ、自分たちで学校たんけんを行った。
- 一年生の時に菜園活動や公園たんけん、昔遊びで地域ボランティアさんやお花屋さん、ジャングル山の会の方、地域の方とかかわった経験がある。二年生になって、栽培活動でもお世話になっている。
- 公園たんけんでは、季節によって咲いている花や木の葉の多さ気温、まちの見え方が違うなどの気付きをしている。
- 生活科の授業は大好きで、意欲的に取り組む子どもが多く、その時間に自分たちから活動を創り出し、新たな学びへとつなげていくこともできる。

→まちたんけんでは、いつのまちが視点を交えたと違った見え方をしたり、新たな発見をしたりすることができ、自分のまちに愛着をもつようになってほしい。

材の価値分析

- 今まで学級で生きものを飼う経験をしてはいるが、その選定や世話は教師主導が強く、係活動として行うことが多かった。今回は「自分で 選び」、「自分で調べたり聞いたりして」、「自分で世話をしていく」、自分自身が主導で材と関わっていくことができるため、身近な生きものを材として選んだ。
- いつでも見て、いつでも触れられることができるようにすることで、繰り返しかかわることができる。
- 地域にはジャングル山があり、そこで情報を得たり、生きものを譲ってもらうこともできると考えられる。生きものを通して身近な人たちと関わることもでき、他の単元や他教科の学習の連続性も期待できる。
- 実際に、栽培活動で腐葉土をジャングル山へもらいに行ったときに、子どもたちがカブトムシをもらった。これは、ジャングル山にカブトムシがいるということを生活体験から知っており、会の方に欲しいという意志を伝えていただくことができた。
- ⇒分からないことがあったら聞いたり、教わったりしながら、自分の世話をしている生きものへ繰り返し関わることで、よりいっそう愛着がわき、変化や成長の様子に気がついていけるようになる。さらには、他の友だちのものと比較し、互いのよさに気付ける材である。

内容 (1)
「学校と生活」

内容 (3)
「地域と生活」

他教科等との関連

【国語】

- ・ 今週のニュース
- ・ たんぼほのちえ
- ・ かんざつ名人

【図工】

- ・ しぜんとなかよし
- ・ みてみていっばい
- ・ つくったよ

【道徳】

- ・ 明るいいあいさつ (2-1)
- ・ いつもありがとう (2-4)
- ・ まちのよさ (4-5)

【生活・他単元】

- ・ このまち大好き (たんけん活動)
- ・ ぐんぐんそだて (さいばい活動)
- ・ なつとなかよし
- ・ わたしのせいちょう

横浜版学習指導要領・重点的課題とののかわり

豊かな心の育成

- 思いや願いが実現できたときの喜びや友達と協働して解決できたときの喜びを味わい、自分のよさや可能性に気付ける子どもを育成します。

コミュニケーション能力の育成

- 活動の中で気付いたことを友達や他の人たちと伝え合うなどの活動を通して、自他を認め合い、協働、構成できる子どもを育成します。

単元名

ひそんでいるぞ！カオ・かお・顔
～ほんじゅくのまちたんけんたい～

単元目標

地域をたんけんする活動を通して、まちの人とかかわることの楽しさを実感するとともに、自分の住んでいるまちの様子を知ったり、新しい発見をしたりしながら、まちや人々に親しみや愛着をもって生活できるようにする。

単元の評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・判断・表現	身近な環境や 自分についての気付き
地域の人々や様々な場所に親しみや愛着をもち、繰り返し関わろうとしている。	好きになった場所や親しくなった人々などのことを振り返り、自分なりの方法で表し、友達や地域の人々などに知らせている。	親しみや愛着のある場所が増えたり、人々と適切に接したりすることができるようになった自分に気付いている。

学校・地域の特徴

- ・ 菜園を地域へ開放し、地域の力を借りながら共に運営を行っている。多くのことを任せられることができるが、子どもの教育活動を温かく見守ってもらおう体制もある。
- ・ 線路を渡って通学する子どもたちがおり、新幹線が走っている学区である。まちたんけんなどでは、子どもたちの興味を引く材がたくさんある。
- ・ 校庭開放を行っており、放課後は児童だけでなく、中学生や高校生も遊びにきている。
- ・ 校庭を含め、敷地が狭く、活動が限られる反面、近くにジャングル山(市民の森)があり、自然が豊富で材もたくさんあり、協力も得られる。

2 指導計画

活動のきっかけ

○学校たんけん（2年生のスターとカリキュラム）で見つけたよ。

- ・校舎の裏に大きな木があるよ。何の木だろう？
- ・ドアから入ってくる光で人の顔に見えるよ。
- ・黒板のレーンに黒板消しを置くと笑ってるみたいに見えるね。
- ・探せばもっと顔みたいなものが見つかるかもしれないね。

- 【生活】「ぼくもわたしも2年生」
「はるをさがそう」
- 【国語】「今週のニュース」
- 【道徳】「あかるくあいさつ」
- 【特活】「学校のまきり」

学校に隠れている「かお」をさがそう。

2時間

○学校のなかで「かお」に見えるものや場所をさがす。

- ・扉が顔に見えるよ。
- ・校庭のはじにある水が流れる蓋が顔に見えるよ。
- ・体育館の扉が顔みたいだ。
- ・掃除ロッカーが顔っぽいぞ。
- ・そういえばうちの近くに顔の形をした家があったよ。

- 【生活】
「このまち大すき」
- 【国語】
「今週のニュース」
「たんぼのちえ」
- 【図工】
「すきなことなあに」
- 【道徳】
「思いきって」
- 【特活】
「発言の仕方」

まちにある「かお」を見に行こう。

2時間

○まちにある「かお」がどのようなところにあるかさがす。

- ・家の窓と玄関の扉で顔に見えるね。
- ・マンホールをよく見ると顔に見えない？
- ・塀の穴が怒ってる顔に見えるよ。
- ・木の形が動物の顔に見える。
- ・さがすといろんなところにあるそうだね。

- 【国語】
「今週のニュース」
「かんさつ名人」
「ともこさんはどこかな」

まちの「かお」をさがして「かおずかん」をつくろう 8時間+常時活動

○まちのなかにある顔を探し、「まちのかおずかん」をつくる。

- ・あ！顔の形を見つけた。なんか笑ってるみたい。
- ・マンホール3つが並んでいて、なんか驚いた顔に見えるよ。
- ・縦長のお家は細長い顔に見えるんだね。
- ・信号機もなんか、顔に見えてこない？
- ・木や花も「かお」の仲間に入れられるのかな？
- ・種類ごとにわけて図鑑を作ると見やすよね。

- 【算数】
「長さのたんい」
- 【道徳】
「温かいところで」
「友だちへの思いやり」
- 【特活】
「よいあいさつ」

自分たちの見つけた「かお」をみんなで見てみよう。

1時間

○グループごとに作成した「かおずかん」をみんなで自由に見合う。

- ・これ！僕たちのグループといっしょだ。
- ・これは、どうやったら顔に見えるかな？あ！ここが口だ！
- ・確かに顔に見えるね。笑ってて素敵だね。
- ・まちにはいろんな顔があるんだね。

- 【国語】
「今週のニュース」
「うれしいことば」
「夏がきた」
- 【音楽】
「おまつりわっしょい」
- 【図工】
「土ってきもちがいい」
- 【道徳】
「あきらめないでがんばろう」
「働くことのよさ」

- ・わたしたちのまちの「かお」をだれかに伝えたいな。
- ・飾り付けをしたり、色をぬったらもっと素敵な顔になるんじゃないかな。
- ・学校の中の顔をもっと素敵にしたいな。

3 活動や体験と思考・表現との相互作用を機能化させる教師のかかわりの実際

学習活動

教師のかかわり

学校たんけんをしてみよう。

○校内でそれぞれが思い思いの活動をする。

- ・季節や自然をからだで感じながら遊ぶ。
- ・友だちと学校の中を探検する。
- ・自分たちの秘密を見つけに行く。

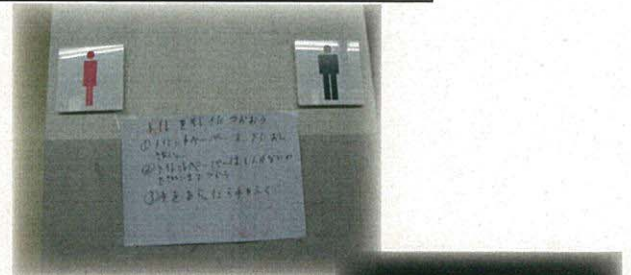
- ・校舎の裏の大きな木はさくらの木だね。
- ・このドアはどこに通じているんだろう。
- ・トイレのところに何か貼ってあるよ。
- ・これって、おもしろい顔だね。

もっと「かお」を探してみたいです。

自分の活動が楽しいみたいだな。

場の設定～時間の確保

自由に活動できるようにする。



学校に隠れている「かお」をさがそう。

○学校のなかで「かお」に見えるものや場所をさがす。

- ・思い思いの所へ行き、「かお」をさがす。
- ・さがした「かお」をカメラに撮る。

- ・扉が顔に見えるよ。
- ・雨が流れる蓋は笑ってるみたい。
- ・フェンスの留め金が面白い顔だよ。
- ・僕たちも同じものを見つけたよ。
- ・どんな「かお」を撮ったのか見たいな。

○自分たちで集めた「かお」をみんなで共有する。

- ・自分たちの見つけた「かお」をお互いに見せ合い、どのように見えるか話す。
- ・似ているもの、同じもの、違うものなど、自分たちのものと比較しながら見る。

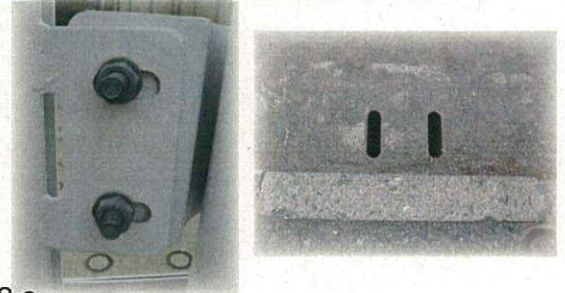
- ・あ。これは僕たちと同じものだ。
- ・おや？これはどうやったら「かお」に見えるのかなあ。あ！ここが目なんだ。
- ・この「かお」どこにあったの？
- ・笑ってる「かお」が面白いよ。
- ・これ、うちの前にあるのと同じだよ。
- ・学校だけじゃなくてうちの近くにもありそう。

学校じゃないところも探していいですか。

自分たちで、一生懸命「かお」をさがそうとしているな。

価値付け

「いろんな『かお』が見つかったね。ただ、見るだけじゃなくて、角度を変えてみるといろんな『かお』が見えてくるね。」



自分たちの見つけた「かお」をみんなで共有しているな。学校だけでなく、自分たちの住むまちにも目を向けてほしいな。

気づきの価値付け～課題の顕在化

「いろんな『かお』が見つかったね。見る方向や見方を変えるといつもとは違ったように見えるんだね。他にもどんなところで『かお』が見つけれそうかな。」

学習活動

まちにある「かお」を見に行こう。

○いつも見ている風景を見直したり、視点を変えて見たりしながら「かお」を見つける。

- ・通学路にある家を顔に見立てる。
- ・公園の木や草などを違った角度から見るなどして顔に見立ててみる。
- ・友だちと話しながら自分が見つけた顔を伝えようとする。

- ・家の玄関が口に見えるよ。
- ・ポストが顔に見えるよ。
- ・車が顔に見えたよ。
- ・車は「まちのかお」じゃないと思うな。
- ・あの、大きな木が犬の顔に見えるよ。今までただの木だと思っていたんだけどな。
- ・絵で描いてると時間が足りないよ。

絵に描ききれないので、自分たちで写真を撮ってもいいですか。

もっといろんな「かお」を見つけに行こう。

○前回の経験を生かし、まちのかおを探し、それをデジタルカメラで記録する。

- ・デジタルカメラで記録する際、どの角度から見ればかおとしてよく見えるか考えなが撮影する。
- ・時間帯や角度によってもまちの見え方が異なってくることに気づく

- ・絵で描くのと違って、写真にするとかおに見えなくなっちゃう。
- ・ここから撮ればかおに見えるよ。
- ・このマンホールはかおに見えるんじゃない？
- ・この前は見えなかったけど、影ができるとかおに見えるよ。
- ・撮った写真をまとめたいな。

自分たちのグループの「かお図鑑」をつくりたいです。

教師のかかわり



自分の発見したことを伝えたい様子だな。

価値付け～時間の確保

子どもたちのつぶやきや発見を価値付けし、それをみんなに伝える場を設定する。そして、あとでふりかえることができるよう可視化しておく。

自分たちから、活動の様子をふりかえろうとする気持ちができたな。デジタルカメラを自分たちで使うようになるよい機会だな。

価値付け～場の設定

子どもたちのつぶやきを価値付けし、それをみんなに伝える。そして、自分たちが振り返りをするためにデジタルカメラを有効に使えるようにする。

自分の経験をもとに、考えを伝え合っているな。だが、自分たちではなかなか解決できない課題もできたな。

可視化～課題の共有化

世話の仕方や餌のことなどを可視化しそれぞれの生きものでまとめていけるようにする。子どもたちどうして解決しにくい課題も可視化し、調べたり聞いたりするようにさせるとともに、教師が調べたことを、地域の人からの手紙として紹介し、課題解決の手段の一つとして選択できるようにしておく。



学習活動

教師のかかわり

「まちのかお図鑑」をつくろう

○自分たちの撮った「まちのかお」や「がっこうのかお」の図鑑をつくる。

- ・自分たちの撮ったかおをどれを図鑑に載せるか選択する。
- ・写真一つ一つがどのような「かお」に見えるか名前を付けたり解説を付けたりしながらつくる。
- ・友だちの活動を参考にしながら、自分の活動に生かす。

- ・これが、かおに見えるからこれは載せよう。
- ・何にするか、決めていたけど実際に見てみると違うものもいいなあ。
- ・これは、なんて名前にしたらいいと思う。
- ・なんか、不思議なかおだなあ。みんなが不思議に思うような名前を付けよう。

○図鑑の形にまとめる。

- ・時系列の順にまとめる。
- ・テーマごとにまとめる。

- ・「がっこうのかお」は「がっこうのかお」でまとめよう。
- ・動物に見えるものと人に見えるものを分けよう。
- ・他の人にも見せたいな。



他の班のも見ていいですか。

自分たちの見つけた「かお」をみんなで見よう

○グループごとに作成した「かおずかん」をみんなで自由に見合う。

- ・自分たちの図鑑と比べたり新しい見方を見つけたりしながら、今までの自分たちの活動を振り返る。

- ・これ！僕たちのグループといっしょだ。
- ・これは、どうやったら顔に見えるかな？あ！ここが口だ！
- ・確かに顔に見えるね。笑ってて素敵だね。
- ・まちにはいろんな顔があるんだね。



まちにはいろんなかおがあるんだね。

いろんな「かお」があり、それぞれに思いがあるな。

活動の保障

自由に語りながら図鑑をつくる時間と場所を保障する。



自分たちで考えながらつくっているな。図鑑の構成を相談し合いながらつくっているな

価値付け～時間の確保

自分たちが考えて図鑑の構成をしていることに価値付けを行う、また、それを可視化し、全体で共有する。

自分たちのものと同じものもあれば、違うものもあるということに気づいているな。

価値付け

自分たちの見つけたものや他の班の友だちが見つけたものの違いを認め合いながら振り返りができていることを価値付けていく。

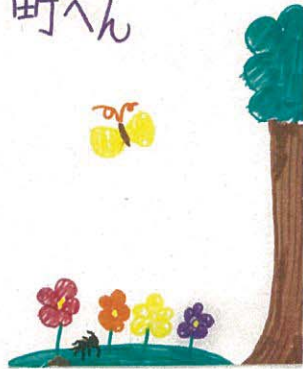
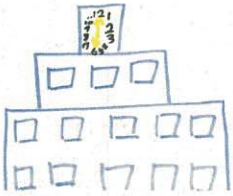


普段見ている自分たちのまちがいろいろな表情を見せることに気づき、今後の活動への動機付けや、自分たちの住むまちへの愛着へつながっていくようにする。

かあずかん (一部)

1はん
学校へん

1はん
町へん



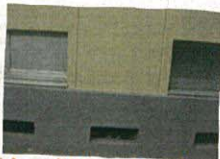
目が回りまわ
な顔



目が回りまわ
な顔

ロカクと書きマロカネ
ジのよと回るくま顔
に見えます

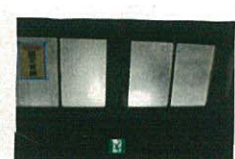
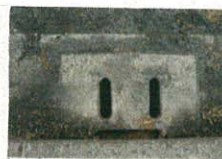
目から放りて人の手戸水の
も水がはいしし母、うしろつ
て手をあらうまき手こあら
目かありま。



くつろい
ま

まどが目で下の
あなが口です。
よこしほへた
があるのてまは
らそいさようん
見えます

このしんは
まのついのわてん
なまのいの人び
中まのいの人び
まのいの人び
まのいの人び
まのいの人び



まのいの人び

まのいの人び

まのいの人び
まのいの人び
まのいの人び
まのいの人び
まのいの人び

まのいの人び
まのいの人び
まのいの人び
まのいの人び
まのいの人び



ねむりん

大きなま

ねむりのまのサスの
ねむりのまのサスの
ねむりのまのサスの
ねむりのまのサスの
ねむりのまのサスの

目とロカでかいので
大きなまのまのま
まのまのまのま
まのまのまのま
まのまのまのま
まのまのまのま



ざしきわらいま

おねぼうさん町

目がざしきの
たたみのよう
な色なので
ざしきわらい
にしました。
しずみはざしきで
おちばをのむこ

目かおてるの
おねぼうさん
でおねぼうさん
おねぼうさん
おねぼうさん
おねぼうさん



ソクラテス

イエスリキリスト町

まげんせんの
えらい人サたい
なかなので
ソクラテスにし
ました。

キリストきょうで
しんけんアーキ
と言っているサ
いたのでイエス
キリストにし
ました。



公園に見つた顔

公園に見つた顔

公園に見つた顔
公園に見つた顔
公園に見つた顔
公園に見つた顔
公園に見つた顔

町たんけんかいている
町たんけんかいている
町たんけんかいている
町たんけんかいている
町たんけんかいている

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

授業づくりにおいて、子どもたちの実態や様子、自らを学習課題として取り組んでいけるように授業をつくってきた。また、授業を行うにあたってはストーリーを大切に展開してきた。

(2) 実施にあたり苦労した点

時間の確保(授業時間および、書類作成にかかる時間)。および、生活科の9つの内容のどの力を子どもたちに身につけさせていくのかを整理していった点。

(3) 児童の反応

普段身近に接している風景の見方を変えることで様々な表情を見せることが分かり、より自分たちの住むまちへの愛着が高まった。また、授業時間以外でも「こんな顔があたよ。」「こうすると顔に見えるんだよ。」など、常時活動でも自ら取り組んでいくようになった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

生活科の学習の出発点を教師主導ではなく、子どもを出発点とした授業づくりを行うようになっていった。

(5) 今後の課題と取り組み(児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等)

子どもたちのどのような発見や興味を取り上げ、価値付けていけるか、また、内容の主となるのが(3)となることが主に考えられるが、(1)や(4)、(5)、(8)などもかかわっているため、子どもの実態に合わせて授業展開をいかにしていくかが課題として上げられる。